

### 2020年-米国の自動車保険に関する市場動向

- 2011年から2018年まで、8年連続で損害率が100%を超過している。
- 2016年～2018年の間、対人賠償補償額は6.7%上昇し、人身傷害補償額は4.8%上昇した。
- 脇見運転による経済損失は、年間400億ドルにのぼる見込。
- 飲酒運転が過去30年で3分の1に減少した一方で、マリファナやその他薬物を摂取した状態での運転が上昇した。
- 2019年の自動車運転による死傷者比率は、100マイルあたり1.06人となり、2018年度のそれ(100マイルあたり1.11人)よりも多少改善された。
- **【2020年の市場予想】 +6.0%～+12.0% 以上**
- 出典: *Insurance Marketplace Realities 2020, Issued by Willis Towers Watson*

### 2020年-米国の財物保険に関する市場動向

- 市場のハードマーケット化(保険料率の上昇)がより顕著となっている。この状況は、2020年末まで続く予想される。
- 過去2年間(2018、2019年度)の損害率は、100%を超えている。従って、2020年度内で大規模災害等による被害が発生した場合、状況はより悪化する見込。
- 保険会社は、被保険者のエクスポージャーを以前よりも厳格にチェックし、リスクを十分に見極める傾向にある。
- **【2020年の市場予想】 +5.0%～+15.0%(大規模自然災害地域を除く) / +10.0%～+20.0%(大規模自然災害地域)**
- 出典: *Insurance Marketplace Realities 2020, Issued by Willis Towers Watson*

### 2020年-米国の労災保険に関する市場動向

- 2015年以来、全体の保険料率は減少傾向にある。2018年度の労災の損害率は、過去50年で最低となっている。
- 一方で、最新医療技術の利用を背景とした(1,000万ドル以上の)高額クレームが散見される。
- テレメディシン(パソコンやスマートフォンを利用した遠隔診療)の発展が、迅速かつ低コストな治療において重要となっている。
- オピオイド(鎮痛剤)の濫用やブランド薬剤の超高額化を背景として、労災治療時の薬剤コスト管理が、重要となっている。
- **【2020年の市場予想】 -2.0%～+2.0%**
- 出典: *Insurance Marketplace Realities 2020, Issued by Willis Towers Watson*

### 2019年-米国のサイバー保険に関する市場動向

- ランサムウェア(コンピューターウイルスの1種)の蔓延により、サイバー平均被害額は50万ドルから100万ドルへ急上昇。
- ケンブリッジ大学によると、複雑化するシステムとセキュリティ対応を背景とし、サイバー被害対応費用は、急増している。
- 2018年5月にEUで施行された「GDPR(EU一般データ保護規則)」と、カリフォルニア州で2020年1月から施行された「加州消費者プライバシー法」を起因としたクレーム発生が増加する見込。
- **【2020年の市場予想】 +10.0%**
- 出典: *Insurance Marketplace Realities 2020, Issued by Willis Towers Watson*

出典である“ *Insurance Marketplace Realities 2020*(英語のみの記載)”の送付をご希望の方はその旨、ご連絡下さい。